納税者という意識

幕別町立札内中学校　三年　齊藤　政翔

私たち中学生にとって最も身近である税金の使い道の一つに学校がある。教科書や先生方の給与、水道代や電気代など様々なところに多くの税金が使われている。しかし、教科書を粗末に扱ったり、水を無駄に流してしまったりしてしまうことが多くあると感じた。

それをしてしまう原因には、国や地域の税金だから、いくら使っても自分はお金を払わないから、という考えがあるからだと思う。

しかしそもそも税金とは、私たちの生活に必要な公共施設・公共サービスをその場でお金を払わなくても誰でも使用することができるようにするもので、いわばなんでも使える保険のようなものである。

その保険料は国民全員が払わなければならない義務であり、大人子供も関係ない。子供は大人より払う金額は少ないが、無いわけではない。子供が納めている税金の大半が消費税だ。誰しも物を買ったことがあると思うので消費税を払ったことのない人はいないと思う。

そんな誰もが払ったことのある税金から、私たちが使っている教科書や学校の備品は買われている。そのため教科書や学校の備品は国や地域に買っていただいたというより、私たち一人一人がお金を出しあって買ったということになる。自分で買ったものは大事に扱うと思うので、教科書などの税金によって買われたものも自分もお金を出しているという意識をもてば、大事に無駄使いしないようになるのではないかと考えた。

納める税金の金額が増えることに反対する人もいるが、公共施設・公共サービスで無料だからと水を無駄に流したりしてしまっていたら、水道料金が高くなり、その分税金を多く使わなければならなくなるため、税金が足りなくなってしまい、国民から多く納めてもらわなければならなくなるので、無駄使いすると自分の首をしめてしまいます。

私は自分も納税者であるという意識をもって生活し、税金を高くしないためにも、今後はなるべく教室の電気をこまめに消す、水や消耗品を使いすぎない、教科書等を丁寧に扱うなどを心がけて学校生活を送っていきたいと思った。